

神戸文化 短大 ○田中せつ子

大阪コミュニティカ専門学校(非) 青野香織 兵庫教育大 菊沢澤子

目的：高齢期を充実して生活するには健康であり、経済的基盤の安定していることだけでなく精神的、社会的にも充実していることが求められる。

高齢者がシルバーハウジングという新しいタイプの住宅に移住した後、以前からあった人間関係の維持と、新しい人間関係作りによって、安心して楽しい人間関係の中で共同生活が過ごせるか否かは今後のシルバーハウジングの計画運営上の重要な課題である。そのためには入居者の人間関係の実態把握が不可欠である。入居者の人間関係の実態を検討し、今後の空間計画とその管理運営やコミュニティ作りに反映させるための基礎資料を得ることを目的とした。

研究方法：調査期間、対象は第1報と同じである。居住者に対し交流について数度にわたり訪問面接聞き取り調査を行った。

結果：対象者の交流関係を、親族、シルバーハウジング内の居住者、前住地での友人、趣味・社会活動、職場、学生時代の友人に分類し、その交流頻度を調べると共に、各々の人との心理的距離を把握した。その結果を同心円上に配置し分析を行った。

その結果、交流量の点からは、いずれの人とも交流の多い【タイプⅠ】、親族中心の【タイプⅡ】、友人中心の【タイプⅢ】、シルバーハウジング内中心の【タイプⅣ】、交流のほとんど無い【タイプⅤ】の5つのタイプに分類することができた。